

国語

令和8年度 授業改善のポイント

- 1 着目した叙述や言葉を基に、考えを伝え合いながら課題解決に向かう学習過程を構想する。
- 2 ねらいに迫るために、児童生徒から引き出したい反応を想定した上で、思考を広げ深める発問を準備する。

叙述を基に考えを広げ深める指導の工夫

【指導事例】「固有種が教えてくれること」(小学校第5学年) 本時5/6

～教材の概要～固有種とはどのような生き物かを説明するとともに、その現状にも触れながら固有種が住む日本の自然環境を守っていく必要性について、複数の資料を用いて述べている。

育成を目指す資質・能力

文章と図表を結び付けるなどして読み、論の進め方について考えること。【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ

本時のねらい

筆者の説明の工夫とその効果について、主張と事例や構成との関係に着目して捉えることができる。

言語活動

筆者の主張と事例や構成との関係について、考えたことを伝え合う。

重要 論の進め方を捉えさせる際は、筆者の主張と事例との結び付きや、主張と構成との関係を、叙述を基に確かめ、主張の説得力を高めている工夫について考えさせることが大切です。

ポイント1 学習過程を構想する際は、児童にどの叙述や言葉に着目させて、考えを深めさせるかを考えます。

ポイント2 発問を準備する際は、育てたい資質・能力がどのような言葉や記述として表れるかを想定し、言語化しておきます。

着目させる叙述や言葉

- 事例1：島国イギリスと比べると…
事例2：日本列島の成り立ち、気候、地形
事例3：絶滅、人間の活動によって、…

引き出したい反応

「日本の環境は特別で貴重なんだ」
「自分たちの責任だという気持ちにさせられる」
「この順序だから主張の説得力が高まる」 など

学習過程

めあて 筆者の説明の工夫とその効果を考えよう

筆者はどうしてこの順序で事例を並べたのでしょうか。

個で考えをもつ
(個の捉え)

個の考え

S1: 事例3が最後だと主張につながりやすい。でも、事例1と2はどちらが先でもよさそう。どうして事例1が最初なんだらう…。

伝え合いの例 は問い返し・切り返しの発問例

S2: 事例1では、「イギリスと比べて」「日本に固有種が多い」こと、事例2では、その理由を説明しているよね。

叙述を基に考えを伝え合う
(構成の意図を確かめる)

T: 「イギリスと比べて」という発言がありましたが、筆者はなぜ日本とイギリスを比べたのか、「同じように大陸に近い島国」という叙述に着目して考えてみましょう。①

S3: そうか。似た条件の国と比べることで、日本の環境が特別だと伝えているんだ。

S1: なるほど。同じ島国なのになぜだろうと思って事例2を読むと、「日本列島の成り立ちや地形」に理由があると分かって納得できる。だから事例1が最初なんだ。

T: 事例3を最初にもってくると、主張の伝え方はどう変わるでしょう。②

S2: 「人間の活動」が原因で「絶滅」しそうでいきなり言われても、自分には関係ないことのように思ってしまうかも…。

S3: 事例1、2があるから、事例3の「現状」を自分たちの問題だと感じて、「わたしたちの責任」という主張に納得できるんだ。

S1: この順序だから説得力が高まるんだね。

考えをまとめる
(考えの再構築)

児童のまとめ(例) 日本の環境の「特別さ」から「危機」へという事例の順序の工夫で、日本の環境を残す責任があるという主張に納得できるようになっている。

重要 考えを伝え合う目的と方法を板書等で可視化し、児童と共有することで、考えを広げ深める対話へとつなげます。 **本時の板書例**

考えを伝え合う
【目的】
説明の工夫とその効果を確かめる
【方法】
つながりを確かめる
事例と事例
事例と主張
事例の順序を入れ替えて
比べる

ポイント2 ねらいに迫るため、①主張を支える叙述に着目させて考えを広げ深めさせたり、②事例の入れ替え等による説得力の違いを比較させたりするなどといった問い返しや切り返しを行います。

ICT デジタル教科書を活用し、事例と事例、事例と主張の結び付きを整理したり、事例の入れ替えを試したりすると、構成の工夫を捉えやすくなります。

